

なな山だより

なな山緑地の会会報 第17号 2009・10

全労済から助成金をいただきました

2009年7月2日、全労済から「2009年全労済地域貢献助成事業」助成決定通知がありました。これに基づき交付申請を提出すると8月20日当会の銀行口座に30万円の振込みがありました。

この助成金は、全労済(全国労働者共済共同組合連合会)が「未来の子どもたちに豊かな自然を残すために、今と未来を生きる子どもたちのために、」をテーマに「地域の人々がたすけあって環境を守る活動、子どもの健やかな育ちを支える活動を支援するもので、活動の輪が広がることにより、人との絆が強まり地域コミュニティの形成、発展、再生につながることを期待する」という趣旨でNGOや任意のボランティア団体を助成するものです。

この情報をインターネット上で見つけた住崎さんが「この趣旨は当会にぴったりだ」と連絡を下さり、助成の申請をしたものです。

申請書には、1. 団体設立のきっかけ 2. 活動実績 3. 申請活動の内容 4. 活動スケジュール 5. 活動の実施体制 6. 活動により見込まれる成果・効果 7. 今後の展望 8. 申請活動の予算書などの項目がありそれぞれ記入するようになっています。

申請時には、(1)活動エリアが当初1ヘクタールであったが、多摩市が隣接した雑木林を買収し、緑地として活用することになり、エリアが約3倍に拡大した。和田・百草地区は宅地開発が進み、緑が少なくなっている。貴重な緑を守るため、開発は免れたものの、長年放置されていた雑木林を、整備された里山として復活させ、動植物の生態豊かな雑木林へと誘導し、それを周辺住民や子どもたちの自然学習の場として提供する。(2)エリアが3倍に広がるので、作業量も格段に多くなる。会員の平均年齢もかなり高いので、機械化、省力化が必要である。チェンソーなど作業機械を導入することにより、より効率的な活動ができるようになる。また、子供たちの自然観察会、学習交流会を開催する際に、日差しや、急な雨に備えてテントを張って対応したいなどの点を強調しました。予算としては、チェンソー、テント購入費、パンフレット制作費などを申請しました。その結果、これまでのなな山緑地の会の努力が認められ助成対象団体に選ばれました。

助成いただいてから間もなくの8月25日、全労済多摩支店の齊田係長さんがなな山緑地に来られて今回助成事業団体に採択されたことを表彰する記念楯を下さいました。この記念楯は世界遺産に登録された、奈良・吉野の山の森を守るため整備作業を行った際に出てきた間伐材を利用したもので、彫り付けてある印字は地元高校林業科の生徒さんが実習として取り組んだものだそうです。



当日は会長以下5名が参加して、表彰楯を受け取りました。(写真右上、中)助成金の使途として、パンフレット代を変更して早速、リヤカー(写真左)を購入しました。住崎さんに手配をして頂き、9月13日の活動日に会員にお披露目することができました。スチール製の頑丈がものでコンパネの荷台を作って取り付け立派に仕上がりました。これから、機材、材木、堆肥、などの運搬に活躍することが期待されます。このほかに、今後テント、チェンソーなどの購入を予定しています。



広げよう会員の和

リレー随筆(17)

縄文・柴犬を飼って

出口 英隆

原っぱを縄文の血を継ぐ犬が駆け回っている。今うちで飼っている柴犬だ。数年前に新聞に天然記念物・柴犬保存会(略称・柴保)の記事が載った。定年を機会に犬を飼うことに決めていたのだが、なかなか決断が着かないでいた。これだと思い、早速連絡を取り、数ヵ月後に漸く、生まれて一ヵ月ばかりの赤(茶色)の雄を譲って貰った。成犬になった今、一般に「柴犬」として知られている犬とは明らかな違いが見られる。一般の柴犬はずんぐりした丸顔のタヌキ型だが、うちの柴犬はいわばキツネ型である。縄文時代から日本列島で人と暮らしてきた、最も原始的な姿を持った野性味あふれる日本犬・柴犬である。

むしろニホンオオカミに似ているという。その顔貌は額が広く平らで、額から鼻先へのラインに段差がなく、目は特徴的な深い三角形で威厳がある。口吻(口さき)は力強く伸び、耳は直立している。また、体形は筋肉質であり、強靱なバネを持っている。そして力強い巻尾、つやのある茶色の毛並みなどが特徴である。これらが相まって、素朴だが気品を感じさせている。また、非常に俊敏な動きをし、2mぐらいの塀など軽く越えてしまうジャンプ力など運動能力にも優れている。基本的にはたいへん素直な犬だが、時に他人には慣れにくいことがある。しかし、理解力に優れているので、時間をかけて犬の信頼を得れば大丈夫だ。生活の場として山野をいつも駆け回るわけにはいかないのに、街中の環境に慣らすことにより家庭犬にもなり得る。

日ごろ、さまざまな能力にびっくりすることが多い。かなりの人語(5~60の単語)そして一部、簡単な会話まで理解できる。普段、これらの言葉をかけながら行く散歩は楽しい。散歩が大好きで2時間も歩いて、こちらがくたくたでもケロツとしている。一方、相性の悪い犬に会くと、制止が効かない厄介な面もある。これからも、毎日この縄文・柴犬とつき合い楽しんでいこうと思っている。

さて、次号はいつもお元気で活動されている岡本さんをお願いします。どうぞ、よろしく。



持続可能な暮らし

相田幸一

彼岸花がいつものように咲き、終わった。キンモクセイの香も遠のき、今年も秋の盛りを迎えた。

樹木は旺盛な水揚げが終わり活動を休止し始める頃となる。草花は春ほどの華やぎはないが、楚々とした色合いの花をみせてくれる。春、夏に花を付けた木や草は、赤い実、青い実、黄色い実、オレンジの実、茶色の実、黒い実の実りを森にもたらしてくれる。

ひと夏を経て、植物は一年の成長を遂げ、実をつけ、根茎には充分の養分を蓄える。これらの中には、人の食料となり、野生の動物たちの餌になるのも少なくない。人はその中から選別し、栽培を試み、収穫を増やしてきた。そして、余剰物は別のもので交換するようになり、市ができ、商いが生まれた。今日の経済活動の始まりだ。

経済活動を生産と消費に大別するとしよう。純粋に生産を担っているのは、水と土と空気それと太陽が支える農業・林業・水産業(いわゆる第一次産業)で他の産業はいずれも消費の産業といえる。製造業といわれるものも、資源の消費で成り立っているに過ぎないといえるからである。

そして、生産の大半は森林と里山すなわち農と林が受け持っている。水産資源がこれらに多くを依存しているのは良く知られるところだ。良質の森林から生み出された諸要素を含む養分が川を仲立ちにして海へと運ばれ、川や海の幸の恵みをもたらしているという。

一方、野生の動物たちはどうしているか。毎年毎年繰り返す僅かに変化し続ける自然の営みの中で、自らの命を持続していかなければならない。それが可能なのが自然界なのだ。

今、私たちは、この自然界を見据えて、社会のありようを考え、発言するようになった。

すなわち、“持続可能な社会・循環する社会を目指そう”ということだ。

これは、これまで見てきたように、自然の生命活動の中に人の暮らしの原点を見つけ出そうということに他ならない。

雑木林の作業に汗を流しながら、毎年繰り返し持続していく自然に、改めて思いをめぐらしている。

中の山の整備がかなり進んできました

中の山(約1.7㍍)は、2008年3月、多摩市の立会いがあり、当会の管理エリアに追加されました。

このエリアは何十年も人の手が入ったことがない場所でしたので、倒木、枯損木はいたるところに散乱し、アズマネザサは人の背丈より高く茂っていました。

境界を確認するにも、ササを分けながら進まねばならず、しばらく行くと元に戻る道がわからなくなるほどの状態でした。とりあえず、倒木の整理と中の谷から入るための、階段と作業用の道作りから始めました。

倒木の整理はかなり危険も伴い、時間もかかる作業でした。また、道作りも、少しずつ進め、あまり目立つものでなく、なるべく自然に溶け込むような素朴なものになりました。

中の山の樹木は、ヒサカキ、シラカシ、イヌツゲなど常緑樹が多い場所と、コナラ、クヌギ、ケヤキなどとの混合林となっている場所があります。



笹の高さは人の背丈を越える



倒木・枯損木の整理



クヌギの苗が育つ山頂付近



倒木や枯損木がいたる所に

頂上付近の常緑樹を伐採したところに、なな山でドングリから育てたクヌギの苗を植えることにしました。

30本の苗が畑から移植されました。うまく根付くか心配しましたが、ほとんどの苗は新しい山が気に入ったらしく、無事に育っています。

春にはシュンランの群落が見つかり、ヤマザクラが見事に咲き、初夏にはリョウブが白く清楚な花を咲かせています。

中の山は人の手が入ったことで、ようやく息を吹き返し、徐々に美しい姿を見せるようになってきました。

山頂付近には、気持ちの良い散歩道ができました。



入口の階段作り

木漏れ日の中を散歩すると、季節毎に色々な小鳥の声が聞こえてきて、すぐそばの道を通る車の騒音も気にならず、静かな時間が流れます。

(鎌田記)



気持ちの良い山頂付近の散策の道

なな山日記(活動・観察記録)

とたに えま

2009・7・12(日)曇りのち晴 気温28

なな山だより16号配布、ホダ木の立掛け、本伏せ。参加者11人。
「作業」草刈り、シイタケはホダ木を立掛け、ナメコは地中に埋める。
「観察」見つけた花 = オオバギボウシ、ヤマユリ(写真右)、リョウブ。



2009・7・26(日)快晴 気温34

すっきり晴れた活動日和、ログミルを使って板作り。参加者15人。



「作業」サツマイモつる返し。広場・西の谷の草刈り。エゴノキの伐採。ログミルで板づくり(写真左)。ウメの枯れ木伐採。タブノキの枝下し。

「観察」見つけた動植物 = ホウチャクソウの実、ウマノミツバ、ヘクソカズラ、アマドコロの実、タブノキの実、ヤマユリ、ヤマホトギス。アカボシゴマダラ(蝶)。

2009・8・9(日)晴れのち曇り 気温32

湿度76%。汗をかいて草取り、テーブル修理。参加者20人。

「作業」畑の草取り。クヌギの苗の周りの雑草抜き。法面の草刈り。

道路沿いの雑草取り。休憩場所のテーブル板が古くなっていたので交換、椅子も綺麗になる。

「観察」見つけた動植物 = タイワンホトギス、ベニシジミチョウ。

2009・8・23(日)晴れ時々曇り 気温29

汗をかいたら赤紫蘇ジュースで元気回復。参加者15人。

「作業」畑 = カボチャの収穫、水やり。広場、法面、道路沿い = 草刈り。

堆肥の天地返し、巣箱作り、今日の暑さにみんなぐったり(写真右)

でも差し入れの赤紫蘇ジュース、ミニトマトなどで元気回復!

「観察」見つけた動植物 = トキリマメ、シラヤマギク、ワニグチソウの実。

キマダラヒカゲ(蝶)



2009・9・13(日)晴れ 気温25

助成金でリヤカー購入、カボチャ収穫。なな山看板新調。参加者14人。



「作業」法面の草刈り、カボチャの収穫、豊作!(写真左)、収穫した後にダイコンを蒔く、購入したリヤカーにコンパネで作った荷台を取り付ける、作業の道の幅を拡張、中の谷の入口を改造する(いずれもリヤカーを通すため)、なな山の看板を新調、薪置場整理(写真右)。

「観察」見つけた動植物 = ツリガネニンジンの花、ヤマウドの花、ヒバカリ(小さな蛇)。



2009・9・27(日)曇り 気温21

活動に最適な良い気候になる。リヤカーの収納場所作り。参加者15人。

「作業」畑 = ダイコンに水遣り、追加の種蒔き。リヤカーの収納場所作り、リヤカーに名前書き(上手になな山緑地の名前が入る)、法面の草集め整理、東の山の枯れ木を数本伐採、スギの木の枝打ち。

「観察」見つけた植物 = ヒガンバナ、アオツツラフジ、ワタの花、ワタの実、キバナアキギリ。

なな山だより 第17号
発行
発行責任者
住所
ホームページ
編集委員

2009年10月11日発行
なな山緑地の会
高木直樹
多摩市和田 1394 13
<http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/>
鎌田文雄・中原君代・戸谷恵麻

編集後記

「なな山つれづれ草」は都合で休載します。代わりに中の山の整備経過と現状を紹介してみました。

暑かった日々がいつの間にか活動しやすい季節になりました。なな山緑地の秋を楽しみながら活動しましょう。K